



北九州市立大学
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU

2020

世界に
羽ばたけ!



北九州 サイエンスガール プロジェクト

平成31年度(令和元年度)・令和2年度
(2019年度～2020年度)
科学技術振興機構(JST)・次世代人材育成事業
「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」

世界に羽ばたけ!



北九州サイエンスガールプロジェクト
Kitakyushu Science Girl Project

<https://www.kitakyusciencegirl.org>

2020年度

活動報告



大学の先生の

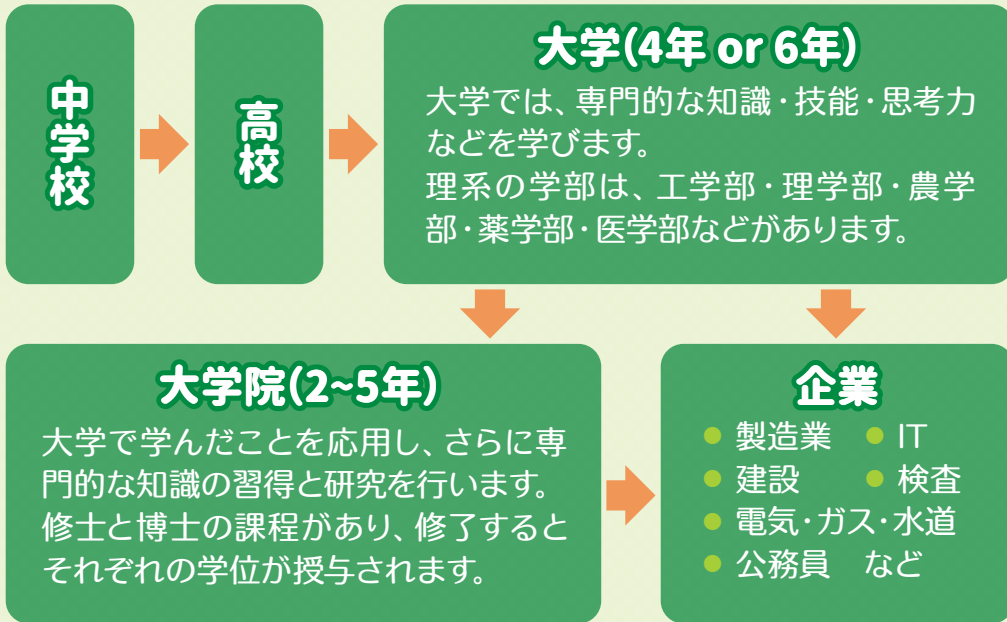
つぶやき



Essay 01-05

北九州サイエンスガールプロジェクトは、 女子中高生のみなさんの 理系進路選択を応援しています。

理系の進路って？



理系進路の最初の一步は、高校での文系・理系選択から始まります。「数学が苦手だし、とりあえず文系を選択しようかな」と思っているあなた、苦手だからで進路を決めるより、将来どんなことをやってみたいかで進路を決めてみませんか。北九州サイエンスガールプロジェクトは、講義、実験・ものづくり体験、座談会を通して、多様な理工系分野の紹介、幅広い職業や進路についての情報を発信しています。まずはイベントに参加してみませんか？思ってもみなかった出会いや発見があるはずですよ。

北九州サイエンスガールプロジェクトは、科学技術振興機構（JST）の支援を受け、北九州市立大学国際環境工学部が、北九州市教育委員会、北九州市女性活躍推進課、株式会社安川電機、九州電力送配電株式会社、シャボン玉石けん株式会社と連携して実施しています。

北九州市立大学国際環境工学部は、北九州市学研都市内にあり、地域・環境・世界というビジョンを柱に「21世紀型の環境技術と情報技術の発展」を目指しています。



2020年度 活動報告

2020.10-2021.03

中学校での出張講義と 大学での実験・ものづくり体験を実施

2020年10月から中学校へのお出張講義と、北九州市立大学国際環境工学部での実験・ものづくり体験、模擬講義、座談会を実施しました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けながらも、出張講義、実験・ものづくり体験を合わせて9回行いました。例年通りとはいきませんが、それでもみんな、楽しかったと言ってくれたので、本当に良かったです。



2020.10-11

2020年度 北九州市立大学公開講座

「女子中高生と保護者のための 化学・機械・情報・建築・生命工学入門」を開催

全5回で公開講座を開催しました。中学生と高校生はもちろん、保護者にもたくさん参加していただきました。講義が中心でしたが、皆さんしっかりと聞いてくれたのが印象的でした。



2020.09-10

YouTubeチャンネル・Instagramを開設

9月に北九州サイエンスガールプロジェクト YouTube チャンネルを開設し、高校生向けの特別企画として数学の問題を解説する動画配信を開始しました。

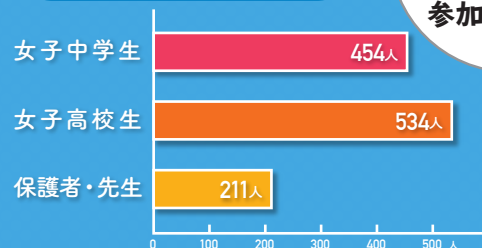
また、10月にはInstagramを開設し、タイムリーな話題や画像の公開を開始しました。皆さんぜひ、ご覧になってください。



参加者アンケート

参加者数

(2019年度・2020年度)



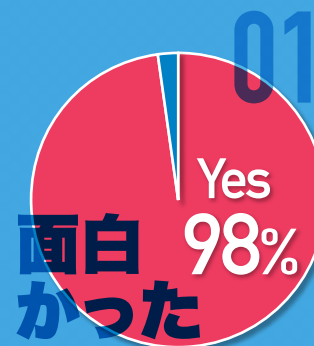
2年間で
1,000人
近くの
女子中高生が
参加しました

保護者の方必見!

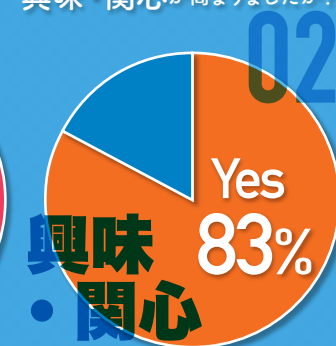
参加者の
理系に対する
意識や
学習意欲が
高まっています!



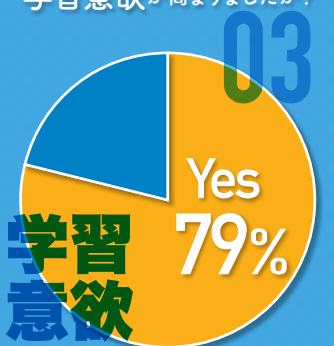
面白かったですか?



科学技術や理科・数学に対する
興味・関心が高まりましたか?



科学技術や理科・数学に対する
学習意欲が高まりましたか?



理系と文系で生活は違うの？
違いを聞いてみました。

理系の大学生活



大学3年生までは一緒

大学の理系と文系では日々の生活が違うのかと、皆さん興味を持たれるところだと思います。私の感覚では大学3年生までは理系と文系で大学生活にほとんど違いはないです。もちろん理系は実験や実習があり、さらにその実験レポートの作成などで忙しいという人もいますが、文系でも授業の課題としてレポート作成がありますので、そのあたりの忙しさは変わらないでしょう。むしろ大学では、どういう授業をとるかについて、学生が自由に選択できます。そのため授業の忙しさや大学に行く頻度は、どういう授業をとっているかによって大きく変わります。たくさん授業をとっていたり、課題の多い授業をとっていると、毎日大学に行かないといけませんし忙しいですが、そうでない場合はそこまで忙しくはありません。ただしこれはあくまでも私の主観・経験上の話なので、大学や人によってこの辺りは異なるかもしれません。

大学3年生までの生活は、「1. 授業、2. サークル、3. アルバイト」で構成されています。人によってこれらのバランスは異なりますが、ほとんどの大学生の日常はほぼこの3つの活動に分類できます。サークル活動の代わりに友人と遊ぶ、自宅でゲームをするなどのパターンもあります。私が大学生の時に所属し

ていたサークルは、大学内の宿泊可能な部屋を借りていたので、ほぼ毎日この部屋で過ごしておりました。またチラシ配布や居酒屋などでアルバイトをしていました。あと大学生の居場所として図書館も多いです(図書館は授業活動のカテゴリー)。大学の図書館は中学校・高校の図書館と異なり、建物が丸ごと図書館と非常に大きく、また勉強をするための机もたくさん並んでいます。私も試験前はよく図書館で勉強をしました。大学の図書館は24時間入れるところもあり、非常に充実しています。もしオープンキャンパスなどで大学に行くことがあったら、教室よりも図書館を見学したらいいと思います。教室のきれいで学習意欲や内容、学生生活は変わりますが、図書館の充実度で学生生活は大きく変わります。

理系でも
テニスサークルに
入れます。



4年生からの研究室所属で一変

それはさておき、じゃあ学生生活において理系と文系の違いは何か？という、それは大学4年生からの生活の違いになります。多くの大学で、理系学生は4年生から研究室という10名ほどのグループに所属し、研究活動を開始します。研究室では、教授の先生、助教の先生、そして大学院生がいます。この構成についてもう少し説明すると、教授は研究室の責任者で、研究室は教授の先生が目指す研究を行うグループです。そのため多くの場合、研究室は教授の先生の名前をとって、〇〇研究室というふうに呼ばれます。また助教は研究室における中間管理職の先生です。助教は教授と学生の間で、様々な実務を担当します。大学院生はすでにその研究室で数年研究を行っている先輩です。こうした方々以外にも、研究室によっては准教授の先生(教授の先生と助教の先生の中の先生)、秘書さん、ポスドクと呼ばれる研究傭兵部隊の人たちがいます。研究室の形、研究内容は本当に様々で、それこそ教授の先生によって全く異なります。そのため一般的に、大学の学部・学科の特徴・内容はそれぞれ固定されたものがありますが、研究室の特徴・内容は教授によって異なり、その教授が退官したり他大学に異動すると、丸ごとその研究室・研究内容がその大学からなくなってしまいます。

研究室での経験は人生に影響する

話を戻します。理系学生は4年生になると、全員どこかの研究室に所属して研究を開始します。それまでの生活は、「1. 授業、2. サークル、3. アルバイト」と言いましたが、4年生になるとこれが一変し、ほとんどの学生が

「1. 研究室」だけとなります。毎日大学に来ていく先は、授業でもサークル部屋でもなく、研究室です。研究室で過ごし、夜になったら研究室から家に帰るといふようにほぼ研究室と自宅だけが生活の場所になります。研究室の形は本当にそれぞれで、教授の先生と2人だけという研究室もあれば、30人以上の大所帯まであります。また研究室の考え方、雰囲気もそれぞれです。この辺りは他の先生がエッセイで書かれていますので参考にしてください。研究室で過ごす時間というのは理系ならではの特別なものであり、そこでの経験はその後の人生に大きく影響します。少なくとも私は、自分が育った研究室をお手本として今の研究室を運営していますし、研究室での活動・生活があったから大学で研究を続けられたと思います。文系でも教授のゼミというものがあり、ゼミ単位で様々な活動をするようなので、もしかしたら理系の研究室に似ている部分もあるのかもしれませんが。ただ理系の場合、研究室での生活は、最低1年から長い場合は10年近く同じ研究室にいる人もいます(この場合、何度も留年していますが)。

大学・学部選択は色々な観点から

大学における理系進路と文系進路の違いは、学ぶ内容が異なる、大学4年生からの生活が異なる、そして将来の職業や仕事の内容が異なるという部分になります。ぜひ、色々な観点から大学を選ばれたらいいと思います。私の大学にも、たまに、特定の先生の研究室に入りたいと言って入学してくる学生がいます。研究室というのは理系の学生にとって大切な活動の場であり、成長の場であり、生活の場です。研究室をモチベーションとして大学に入学してもいいのかもしれませんが。

2 Essay 02 大学の先生をつぶやき

謎に包まれた大学の教授。 先生の先生がどんな人だったか教えてもらいました。 私の先生

先生、今、暇ですか？

大学の先生には、考え方や物事の見方を教えてもらいました。その先生に出会えたことを感謝していますし、また今でも尊敬しています。

私たち学生は、先生に用事があるときは先生の部屋を訪問します。アポなどはとる必要はなく、ノックして入っていく感じです。私も用事があるときは先生の部屋に行き、「先生、今、暇ですか？」と聞いていました。この「今、暇ですか？」というのは、相手が暇かどうかを聞きたいのではなく、私と話す余裕がありますか？というつもりでほぼ反射的に出てきてしまうものです。先生はいつも「暇か暇じゃないかと聞かれたら、暇じゃないけど、君の話を聞くのはやぶさかではないよ」と言って、話を聞いてくれました。冗談なのか本気なのかわかりませんが、なかなかいい返しです。私も今は先生という立場になったので、学生が「今、暇ですか？」と来たらこれで返したいのですが、「やぶさかではない」なんてなかなかうまく言えません。でもこの立場になった今だからわかるのですが、こうやって学生が来た時の先生の気持ちはまさしくその言葉の通りで、「え、今？もう忙しいよ、暇じゃないよ。でもまあ何か用事があって来てるんだよね？だったら話を聞くよ」です。そう、まさしく「暇か暇じゃないかと聞かれ

たら暇じゃないけど、君の話を聞くのはやぶさかではないよ」です。早く私もこの返しができるようになりたいです。



みんなで、タイマー作戦。

私の先生はとても話の長い人でした。これはまあ中学校や高校でも先生あるあるだと思いますが、とりわけ大学の先生は話が長いです。私の先生も油断したら3時間4時間話す人でした。なので先生の部屋に行くときは必ず長くならないよう対策をとっていました。先生が帰宅される時間は決まっていたので、その2時間前に部屋を訪ねるとか、タイマーを2時間にセットして持っていくようにしていました。そもそも大切な用事というのは最初の30分くらいでいたい終わります。あとはどうやって話を終わらせるかだけの問題です。先生の帰宅時間を見計らっていくのは良いのですが、先生は話すとき時計を見ないので、たまに予定帰宅時間に気づかないで、延々と話すことがあります。そのため私



や研究室の人たちはタイマーをセットするタイマー作戦を多用していました。タイマー作戦はなかなかいい作戦で、タイマーになると話が中断され自然と時計を見ます。またタイマーが鳴ると、なにか用事があるように見えますので、「あ、じゃあ実験に戻らないといけませんので、先生ありがとうございました。」と自然と退室ができます。ただし、みんな使っているといいかげんバレますので、たまにはじっくり先生の話を聞くことも大切です。

推敲は、すればするほど良くなる。

大学生は卒業するのに卒業論文という長い作文みたいなものを書かないといけません。この卒業論文というのが、きちんとした文章を書く初めての機会になります。これは書きながら先生に添削してもらい、またその部分を書き直すという形で仕上げていきます。先生は細かいところまで本当によく見てくれました。毎日朝まで文章を書き、先生が大学に来る前に提出します。その後いったん家に帰って睡眠をとり、それからまた大学に行きます。そうすると先生が添削してくれた原稿が机に置かれてますので、またそれを見て朝まで修正と書き直しを行います。人にもよるのですが、私は1週間これを繰り返して卒業論文を書き上げました。これは昼間に家に帰れるだけましで、人によっては3日間家

に帰ってないという強者もいました。先生は「文章というのは推敲すればするほど良くなるんだよ」と言いながら私の論文を見てくれました。本当にその通りで、見てもらって書き直す度に内容や文章がよくなります。ただ、添削のたびに良くなるのはわかるのですが、何回出しても必ず修正されて返ってきます。1回目2回目はいいのですが、これが4回目5回目となると、これはいつまで続くんだろうというある種の絶望に襲われます。そうすると先生から、「文章の推敲に終わりはないんだよ。あるのは締め切りだけ」というありがたいお言葉がでできます。そうです、この、添削→修正→添削→修正…という終わりの見えないサイクルを終わらせられるのは、文章の内容ではなく、唯一締め切りだけなのです。締切日というのは始める前までは憂鬱な重しでしかありませんが、始まってしまったら救いであり、暗いトンネルから抜け出せる唯一の手段なのです。どのような文章でも締め切りはいつも開放でした。今、自分が学生の論文を添削する立場になりましたが、なかなか先生のように何度も何度も添削をすることができません。あの、「文章の推敲に終わりはなく、あるのは締め切りだけ」という言葉を聞かせてもらえた自分は幸せだったと思います。私も学生にそう言ってあげられるようにがんばらなといけません。



3 Essay 03

大学の先生のつぶやき

研究室、それは学生にとっての居場所であり戦場。
そんな研究室の様子を聞いてみました。

研究室へのいざない

ふたつのイメージ

理系学生は、卒業に向けて研究論文、通称「卒論」を提出しなければならない。卒論を書き上げるために、日々研究室に通い、ときに深夜まで実験に勤しむのが理系学生の常である。卒業研究は研究室という環境下で実施される。研究室は理系人材の成長を促す上で極めて重要な場所であるのだが、読者の皆様の多くはその実態について知る術を持たないであろう。この場を借りて紹介させて頂く。

先に断っておくが、研究室と一言でいっても実に様々だ。三者三様、十人十色、千差万別である。大学教員の数だけあると言ってもよいものであるが、なぜか私にとっては研究室のイメージは2つに絞られる。「珈琲の香りが漂う癒やし系研究室」と「バチバチの競争社会を実感できる白い巨塔（ご存知？）系研究室」だ。

すみませーん。
研究室に
誰かいますか？



先生が
美味しいワイン
買って来たん
だって

じゃあ私、
肉屋さんで
メンチカツ
買ってくるわ



癒やし系研究室

前者型の研究室では、往々にして、時間がゆっくり過ぎる。学生はまばらであり、研究室の奥の部屋では、教授が居眠りをしているものである（注：教授職は楽だと思われてしまいが、実はハードな仕事故に肉体的限界が来ただけ…かもしれない）。時間に縛られることなくソファに横になり、黙々とマイペースで好きなことと向き合いたくなる謎の空気感がある。こうした研究室では、試薬棚に並ぶビンテージものの薬品を片目に空想に耽ることが最良の楽しみ方である。いつの時代か分からないが、タイムスリップしたかのような錯覚を覚えることもしばしば。そんな感じで昼間は開店休業状態であるものの、深夜になると何故だか実験をし出す学生が

出てくる。また、学会前になると信じられないほど活気づく（焦り出す）という特徴もある。気をつけないといけないのは、研究の話題が盛り上がったときである。もともと時間感覚が狂った人の集まりなので議論が始まるとエンドレスと思った方がよい。タチが悪いことに、試薬棚にはお酒も並んでいるものであり（私的意見）、誰かが酔い潰れるまでは帰れない。

白い巨塔系研究室

後者型で思い出すのは、国の研究機関のある研究室である。前者型とは一転、非常に活動的で、大学生、大学院生、博士研究者が忙しく白衣をぶんぶん振り回しながら実験を進めている。また、学生はおろか企業を含めた学外、海外からの訪問者も絶えることがない。研究成果を発表する場も多数用意されており、毎週のように複数研究室が関わる大規模なセミナーがある。誰しもが一流国際誌上での大論文の発表や特許を目指した熾烈な世界的競争の最中にいることを強く実感している。例えば研究室に入ったばかりの新米ペーペーであっても、プロ研究者コミュニティの一員として最先端研究を進めているという自負が出てくるため、交感神経バクバクでアドレナリンバドバなのである。当然、昼も夜も関係なく働く強者が出てくる。結果として灯りが年中消えることのない不夜城

え、遅刻しないために
毎日研究室に
泊ってたんですか！

逆転の
発想だよ。



となる。先輩学生のT田さんは、研究室内に炊飯器を持ち込み自炊をし、歯磨きをし、シャワーを浴び、柔らかな寝袋と枕を持ち込み睡眠を取るという生活を続けていた。研究室に住んでいるのである。何の為にアパートを借りているのか？という不毛な質問をしたくなる。そんなボクも研究が忙しかったときに、T田さんの隣のソファで仮眠をとったことがあるが、朝目覚めたときに、T田さんの顔が目の前にあって、他人の家に無断で泊まってしまったような何とも言えない気持ちになったのを良く覚えている。

自分の肌で感じてみては？

さて、皆さんは研究室と聞いてどういうものを思い浮かべるであろうか？現在勤務先の北九州市立大学にも両者のタイプが存在している。先に紹介したものはやや行き過ぎている部分があるかもしれないが、どちらも理系特有の空気が醸成された異質な環境であり、それぞれに良さがあると思う。中高生にはイメージしにくいかもしれないが、百聞は一見にしかず。一度この空気を吸いに来てはいかがか。

まさか、
もう帰るわけじゃ
ないよね？



先生に聞いてみた。理系に向いてる人ってどんな人？

「理系＝数学が大好き!!」 とは限りませんよ

正直、
数学は得意では
ありません。



理系に向いてる人って？

「理系」と聞くと、皆さん何を思い出すでしょうか。数学の数式でしょうか、物理の公式でしょうか、それとも化学式でしょうか。おそらく大半の人は「数学」を思い出すのではないかと思います。でも、数字や数式の羅列を見ると頭が痛くなる、という人も多いのではないのでしょうか。

私は理系の研究者をしています。正直、数学はそれほど得意ではありませんし、学生の頃は興味もそれほどありませんでした。もちろん仕事で数式を使うことはありますので必要なのですが、数式ばかりの論文や本を見ると斜め読みして、結論だけ読んで終わりにしてしまうことも多々あります。つまり「数学が大好き!!」という人でなくても理系の人はいるのです。今回は、『理系・文系』と学問を分けるのは間違っている!』という多くの方からの批判をあえて承知で、「数学が大好きでなくても理系に向いている人」について考えてみたことをお話しします。

チョコちゃん、曰く…

少し前に、NHKの「チョコちゃんに叱られる!」という番組で「数学はなんのために習うのか」という問いがあり、解答は「論理的な思考を身につけるため」ということが挙げられていました。たしかに数学は論理的な思考を身につけるためには非常に有効な手段であると思います。ですが、チョコちゃんですら解答していた先生に反対意見を言うつもりは全くないのですが、論理的な思考は数学からでなくても身につけることができると私は思います。

論理的思考を身につける方法。

例えば、今書きました文章の例で言いますと、

①「論理的な思考を身につけるために数学は有効である」

②「論理的な思考は数学からでなくても身につけることができる」

数学が苦手でも
いいんですね。



という2つの文章は、全く矛盾していないことが皆さんにはわかりますよね？

簡単に解説すると、もし①の文章が、「数学は論理的な思考を身につけるのに絶対に必要である」という文章であれば、②の文章は①を否定することになりますが、①の文章は「数学は論理的な思考を身につける有効な手段の1つである」という意味ですので、②の「数学より効率が悪いかも知れないが、数学以外の手段でも論理的な思考を身につけることはできる」という意味とまったく矛盾しません。このように、「言葉」を分析することも「論理的な思考」と言えるのです。だから国語の授業を受けても論理的な思考は身に付きますし、小説を読んでも論理的な思考は身に付きます。ただし、漠然と文章を読むことでは身に付きません。文章を分析することが必要です。

興味があることを分解してみる。

もっと極端に言うと、自分が好きな歌やドラマからも論理的な思考を身につけることができます。例えばあなたが好きなドラマがあったとしましょう。なぜそのドラマが好きか、理由を考えてみてください。そしてそのドラマを、例えば「恋愛要素がある」、「好きな監督が作っている」、といった、そのドラマを構成している要素で分解してみてください。そして、以前見て好きだったドラマも同様に要素で分解してみてください。おそらく共通する要素がいくつか見つかるはず。その共通した要素こそが、「あなたが好きになるドラマの要素」ですので、その要素をもつドラマを探せば、自分の好きなドラマを見つけられる可能性が高くなるでしょう。(より可能性を高くしたい、という人は、要素をどんどん深く、細かくしてみてください。)また、自分

の好きなものでなくとも、例えば人気のマンガがあったとして、そのマンガを構成している要素を分解して分析することで「なぜ人気なのか」「人気の無いマンガとの違いはなんなのか」ということを知ることができます。私はこのような「論理的な思考による分析」が好きな人は「理系」に向いていると思います。

数学を別のことに関連付けよう!

で、実はこれ、数学でいうところの「因数分解」なのです。数学ではなにをやっているかよくわからなかったかも知れない「因数分解」ですが、このように数学でないことに関連付けると面白いでしょう？さらに、高校生が数学で「なぜ習うのかよくわからないと思うものTOP3」に入っていると私が勝手に思っている「微分・積分」も、「ニュートンとライプニッツの大喧嘩」という歴史的事実と関連付けると、歴史好きの人ならとても面白く覚えることができますよ。もし興味があったら調べてみて下さい。

まあ、微分・積分は大学で工学を学ぶと、嫌というほどなぜ習う必要があるのかよくわかりますけどね…。興味がありましたら、是非工学部の先生を訪ねてみて下さい!

因数分解したら、
ただの
小麦粉と油…

この
グラタンコロッケ
美味しいんだぜ



大学の先生はどうして
大学の先生になったんだろう？

素朴な疑問



文理選択は、軽い気持ちでした

「理系大学の教員はどのように理系進路を選択したのか?」「数学や物理が得意だから?」、それともよく言われるように、「将来どんなことをしてみたいかで進路を決めた???」。そもそも、「大学の教員は、中高生のころ、大学教員を目指していたのか?」と「素朴な疑問」が思い浮かんだ。

中高生の皆さんは、進路選択の一つとして、これから、「文理選択」するかと思う。本プロジェクトの趣旨に沿えば、「数学が苦手だから文系にしようかな、と思わずに、将来どのようなことがしたいのかで進路をきめたほうが良い(文理選択したほうが良い)」と言うべきなのかもしれないが、ここでは、そのようなことはあえて筆者から言わないでいようと思う。それよりも前述の「素朴な疑問」についてであるが、筆者自身、中高生のころ、今の職についていることを全く想像していなかった。そもそもこのような職があることも知らなかった。そのため、大学の教員を目指して「文理選択」したかという、全く違うことになる(どちらかという「理系のほうが覚えるのが少ないから、高校の時間割上早く帰れるから」程度で選択したような気がする…)

大学院ってなに?

大学教員は、教員といっても、中学や高校の教員と異なり、「教員免許」が必要というわけではなく、「博士の学位(←研究者へのパスポート、研究能力の証明みたいなもの)」が必要となる場合が多い。そのため、大学卒業後、さらに大学院へ進学することとなる。筆者が所属する工学系の大学院では、一般的に修士課程(前期課程)の2年間と、その後の博士課程(後期課程)の3年間があり、合計5年間、大学院生として在籍することとなる(博士課程に進まず、論文のみの審査によって博士の学位を取得する場合もある)。大学の4年間を合わせると9年間になるものの、多くの人の場合、大学院は修士課程の2年間のみで、就職する(合計6年間)。

そういえば、
さつきとめいのお父さんも
大学の先生ですね。



大学教員も選択肢のひとつに

中高生の皆さんからすれば、「大学」まではイメージできる人が多いかもしれないが、そのうえの「大学院」のことは存在すら知らない人がいるかと思う(筆者も大学に行くまでは、大学院の存在をよく理解していなかった)。近年では、理系の学生は、大学院の修士課程まで行く人が多いと思う(中高生の皆さんからみると、「まだ、勉強し続けなければならないのか」と嫌になる人もいるかもしれないが、筆者の考えでは、内容が異なるだけで、「勉強すること」は一生続く気がする…)。

大学院の博士課程は、所定の単位(←履修した科目で一定以上の成績を修めるともらえる)を修得し、かつ、博士論文(少し長い作文のようなもの)の審査を経て見事合格すれば、修了である。筆者は、3年間のところ6年間、博士課程に在籍していた…、別に勉強が好きだったわけではないが…。このころになると、大学の教員になることを考える大学院生がいるかと思う(もう少し前からかな…)

現在、分野にもよると思うが、筆者が大学院生であったころに比べると、博士課程に進む大学院生の数が少ないように思う。そのため、若手研究者(筆者もまだ十分若手になるが…)が少なく、「次の世代(芸人で言うと第7世代の次、第8世代…)では、以前に比べると教員ポストが空くことになる」という声も聞こえてきている(すなわち、教員のたまごがない)。「博士の学位」をとれば、必ず大学の教員になれるとは限らないが(そのほか、研究業績なども必要)、この原稿を読んでいる人の進路選択肢のなかの一つに、「大学院に進学して大学教員を目指す」があっても良いのではないかと思う。

直接、質問してみれば?

さて、何だかんだで最初の「素朴な疑問」の答えを出していないが、もし、興味があれば、中高生の皆さんは、ぜひとも、自分たちで答えをみつけてほしい(無責任ですみません)。実は、中高生時代に大学へ行くことは、比較的、簡単である(筆者の中高生時代は、こんなに気軽に行けるとは思ってもみなかったが…)。公開講座や大学訪問、オープンキャンパスなど、興味があればアポをとって直接、教員に質問できることもある(現役学生や大学院生の声も…)。ぜひともそのような機会を生かして、皆さんが「文理選択」する前に、多くの大学の教員に話を聞いてみるのも良いかと思う。

ちなみに、本学には、とても気さくな教員や職員がそろっているので、気軽に遊びに来やすい環境である。「なぜ理系を選択したのか?」「なぜその分野を専門としたのか?」など、「素朴な疑問」に対してもきちんと答えてくれるはずである。いろいろな意見や予想もつかない回答があるかもしれない(筆者の意見は、あまり参考にならないが…)。そのうえで、「文理選択しては!?!」、そのような機会が皆さんの進路を選択するうえで、少しでも手助けとなることを願う。

君、大学の先生は
気楽だと
思ってたでしょ。

いえ、そんな…。
決して夏休みが
長いんじゃないかとか、
好きなことばかり
やってるとか、
思ってません…。



よくある質問

Question



Q.1 北九州サイエンスガールプロジェクトのイベントに参加するにはどうすればいいですか？

A.1 最新のイベント情報はホームページ上に掲載しています。ぜひ、北九州サイエンスガールプロジェクトのホームページにアクセスしてみてください。ホームページから参加申し込みもできます。

Q.2 北九州市外の中学校・高校に通っているのですが、イベントに参加できますか？

A.2 北九州市外の方も参加できます。また2021年度は新しくオンラインによる配信活動も計画しています。最新の情報は随時ホームページで発信いたしますので、北九州サイエンスガールプロジェクトのホームページをご覧ください。

Q.3 うちの学校にも出張講義に来てほしいのですが、どうすればいいですか？

A.3 申込書をお送りしますので、まずは下記のお問い合わせまでメール等でご連絡ください。

Q.4 中学生・高校生でないのですが、参加できますか？

A.4 北九州サイエンスガールプロジェクトは中学生・高校生向けのプロジェクトとなります。ただ北九州市立大学国際環境工学部では、小学生から一般の方までを対象とした「ひびきのサイエンススクール」を実施しています。詳しくは下記ホームページをご覧ください。
<https://www.kitakyu-u.ac.jp/env/contribution/delivery.html>

【お問い合わせ】

北九州サイエンスガールプロジェクト事務局

北九州市立大学 国際環境工学部 学務課 入学試験係

〒808-0135 北九州市若松区ひびきの 1-1

TEL: 093-695-3340 FAX: 093-695-3358

E-mail: nyushi@kitakyu-u.ac.jp

<https://www.kitakyusciencegirl.org>

